

ばれっと

2011
8月
No.144

まだ*これ 合併号

●目次

- P2~3 仮設住宅での生活支援を行うNPO
- P4~5 地域で活動するNPO
- P6 市民活動サポートセンターからのお知らせ

ともに、前へ！仙台

東日本大震災 特別号⑤

仙台のまちづくりについて、多くの皆さんと語り合い、“何ができるか”を考える「せんだい市民カフェ」が、7月24日(日)に市民活動シアターで開催されました(主催 仙台市市民公益活動促進委員会・仙台市)。今回のテーマは「復興×若者×まちづくり」。3月11日の東日本大震災を乗り越え、これからの仙台の復興を担う若者たち約40名が集い、想いを自由に発表しました。

「せんだい市民カフェ」は今後、第2回、第3回と続いていく予定とのことです。詳細が決まり次第、サポセン館内等でお知らせします。



▲「せんだい市民カフェ」でアイデアを出し合う若者たち。(仙台市ホームページより)

■ご利用案内■

<開館時間>

平日 午前9時～午後10時
日曜・祝日 午前9時～午後6時
休館日 8月まで 毎月最終水曜日
9月から 第2・第4水曜日

●仙台市市民活動サポートセンターは、市民活動団体・NPO等の復興支援・まちづくり支援の一環として、9月30日(金)まで無料で貸室をご利用いただけます。

地域で活動するNPO●

NPO法人 FOR YOU にこにこの家

活動によって作り上げた 地域の力で震災を乗り越える

NPO法人FOR YOU にこにこの家（以下、にこにこの家）は、「子どもも高齢者も障がいを持つ方も、地域みんなが気軽に集い、交流し、支え合う憩いの場所を実現したい。いつまでも住み続けたいと思えるまちに」という想いで、地域に密着した活動をされてきました。また、太白区にある東四郎丸児童館の指定管理者でもあります。今回は、理事長の小岩孝子さんにお話を伺いました。

● 地域住民をやさしく包んだ児童館

地震発生時は、東北工業大学長町キャンパスで会議中だった小岩さん。すぐさま児童館に戻ってみると、周囲では避難を呼びかける放送が鳴り響き大混乱。会う人ごとに「どこに逃げればいいのか？」と聞かれ「小学校か3階以上の高い所」と案内したものの、寒さなどもあって児童館に人がどんどん集まってきました。「児童館は避難所に指定されてはいないけれど、だからといって困っている人・不安な人を放っておけないとの思いでした」と小岩さん。

最終的に約230人が児童館に避難しましたが、まず、受付を設けて人の出入りを記録。車椅子の方がいる家族、小さな子どもがいる家族、ペットがいる家族など、グループ化して部屋割りをしました。このように受付記録をつけていたので、安否の問い合わせがきた時、非常に役立ったとのこと。災害に備えた講習会を開催した時に「HUG（注）」の経験があったので、落ち着いて対応できたと小岩さんはおっしゃいます。

● 地域のつながりによって支援が広がる

にこにこの家のスタッフの中から「自分たちは家も大丈夫だったし、他の方のために何かできないだろうか」と、自発的に提案がありました。当時、にこにこの家は水とガスが使えたので、炊き出しをすることになりました。材料は、みんなで家から持ち寄り、「これを使って」と地域の方がくださった食材を使ったそうです。また、日頃、にこにこの家に関するちらし等を折り込みしてくれる地元紙の販売店が「震災の情報伝言板」を発行することを知り、炊き出しの告知をしました。すると、さっそく地域の高齢者から「炊き出しを食べたいけれど、児童館まで行けない」との連絡があり、配達することで対応しました。「他にも同じような人がいるかもしれない」と地域包括支援センターに協力をお願いして地域の高齢者を紹介してもらったり、伝言板にも掲載し、多くの皆さんにお弁当を届けることができました。



▲炊き出しをする“Jr. にこにこボランティア”

● 子どもたちも大活躍

炊き出しやお弁当、物資の配達などでは、児童館やにこにこの家のイベントをお手伝いしてくれている“Jr. にこにこボランティア”を中心とする子どもたちのボランティアが大活躍しました。まだ余震も頻発する時だったので、子どもたちのボランティア活動は大丈夫だろうかとお岩さんは心配していました。けれど「人の役に立つなら」と、むしろ親御さんたちが送り出してくれたそうです。子どもたちからは「本当のボランティアをした気がする」「“命を助けてもらった”って言われたんだ」という誇らしげな言葉があり、子どもたちにとっても大きな経験になったことは間違いありません。

日頃からの備えと、地域の方々と普段から顔の見える関係を築いてきたことが、今回の大震災を乗り越える原動力となりました。（菅野 祥子）

注：HUG（ハグ）＝避難所運営ゲーム

（Hinanzyo Unei Game）の略

英語で「抱きしめる」を意味するHUG。避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けられた。避難所運営をみんなで考えるためのひとつのアプローチとして、静岡県が開発。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを疑似体験するゲーム。ゲームを通して、避難所の運営方法を学ぶことができる。（静岡県HPより）

NPO法人 FOR YOU にこにこの家

【代表者】 小岩孝子

【連絡先】 〒980-1101

仙台市太白区四郎丸字神明16-2

TEL & FAX 022(241)0858

【E-mail】 nikoniko@w2.dion.ne.jp

【ウェブサイト】

<http://www.k4.dion.ne.jp/~nikoniko/index.htm>